



## ●企画展示

## “画かき村”の絵描きたち

—明治・大正時代の田端—

1/27(金)~5/7(日)(休館日を除く)

芥川龍之介が田端転入後まもなく、友人に宛てた手紙に、当時の田端の様子を“画かき村”と書き送りました。かつて田端は、画家・小杉放庵をはじめとするたくさんの芸術家たちが住んでいたのです。本展覧会では、田端ゆかりの洋画家・日本画家についてご紹介し、周辺の文士・芸術家たちとの交流を振り返ります。



▲小杉放庵「母」大正時代

▲小穴隆一「田端駅裏口」1914(大正3)年

## 本展の見どころ

「田端文士芸術家村」の草分け小杉放庵は、洋画と日本画を学び独自の表現を切り開きました。「母」という作品は、簡略化された画面の中に、あたたかな色彩で子を抱く母の姿を巧みに描いています。その他にも、これまで展示の機会が少なかった画家たちの作品をご紹介します。当館ならではのラインナップで“画かき村”の絵描きたちの作品をお楽しみください。

## 【展示予定作家】

池田輝方、池田蕉園、石井柏亭、小穴隆一、小杉放庵、竹久夢二など

## ●田端ひととき散歩

3/18(土)13:00開演(12:30開場)

田端の王様・芥川龍之介の憧れ  
～“漱石山房”と“澄江堂”～

かつて田端に暮らした芥川龍之介の書斎には、いたるところに夏目漱石への憧れが散りばめられています。『芥川龍之介 田端の家復元模型』の制作によって見えてきた二人の師弟関係を、芥川が遺した愛用品から探っていきます。(館内説明・散策 各1時間ほど)

【申込】2/27(月)までに往復はがきにて下記内容を記載の上お申込下さい。1通につき1名(同居家族に限り2名まで可)

往信用裏面 ①イベント名 ②住所 ③氏名(2名の場合は全員分) ④電話番号 ⑤年齢

返信面表面 応募者の住所・氏名

【宛先】〒114-0014 北区田端6-1-2 田端文士村記念館E係



## 漱石ゆかりの龍之介愛用品 ◆紫檀の文机と原稿用紙

漱石没後、大正7年1月頃、夏目漱石夫人からの結婚祝いでも神田辺の唐木屋にて購入したもの。大きさ横二尺八寸、縦一尺六寸五分。漱石も紫檀の文机を愛用。

原稿用紙は大学以来、本郷東大前にあった松屋文房具店のものを愛用。『坊っちゃん』執筆時、漱石も使用していたが、龍之介は推敲が多く、反故を少なくするため400字ではなく、もっぱら「半ぺら青罫」(200字)を使用していた。



◀芥川龍之介 田端の家復元模型より紫檀の文机

## 第15回「北区内田康夫ミステリー文学賞」

## 授賞式・記念イベント



応募総数226作品の中から、厳正な審査を経て、いよいよ各賞が発表されます。

第15回記念特別企画や、昨年度の大賞受賞作品を演劇化した舞台上演もお楽しみに。



昨年の授賞式の様子

昨年の演劇の様子

3/18(土) 14:00開演(13:30開場)  
定員1,000名(先着順) 入場無料

北とびあ さくらホール

【申込方法】●往復はがき ①代表者氏名 ②郵便番号・住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤希望人数(1グループ5名まで)および全員の氏名を記入し、下記宛先までお申し込みください。※車イス希望の方はその旨朱書きください。

●電子申請『東京共同電子申請』で検索。「東京共同電子申請・届出サービス」サイトより、必要事項をご入力の上お申し込みください。

【宛先】〒114-8508(住所不要)北区広報課「ミステリー文学賞」E係

【問い合わせ】北区広報課 ☎03-3908-1102(平日8:30~17:00)



## 第15回記念特別企画

## 謎解きクイズ

## 「名探偵・浅見光彦への挑戦!」

ご来場の皆さまに、浅見光彦からの問題に挑戦していただけます。



授賞式 各賞の発表と表彰など

## 記念イベント

演劇「小さな木の実」【原作】島村潤一郎氏  
【脚本・演出】金子裕  
【出演】劇団虎のこ  
(第14回大賞受賞作品)

詳しくは 北区文学賞 で検索